

身につくもんでなくてはいかん

三浦 春樹

話を戻すが、今日で、兄貴は十八才。

兄貴は、「今日から俺は大人だ。」と言う。

「少なくとも、体は大人だ。」と言う。

しかし、まだまだ、精神面や、

大人としての苦しみや経験は不足していると思う。

それが、完全に身につくには、

男は二十六才、女は二十二才とか、

誰かが言っていたのを思い出す。

お母ちゃんは、二十一で兄貴を生んだ。

僕を二十三、京太を二十五で生んだ。

僕の実のお父ちゃんは、僕が六つの時、

小学校入るちよっと前の、二月に病死。

まだ、三十六才だった。

兄貴が、それを気にして、

「俺の寿命も半分過ぎた。」と言う。

本当に僕等は早死にする血筋なのかなあ。

お母ちゃんは、しばらくして再婚。

末っ子の幹夫は、僕が小学校二年の時、生まれた。

それで、正式に、僕等、上三人も、

新しいお父ちゃんの籍に入籍して、

名字が変わった。

